

第2回 養父市文化会館(仮称)を新しい出会いの場とするための基本計画策定委員会 会議事要旨

日 時 令和2年9月1日(火) 10:00~12:00
場 所 養父市役所 第1会議室
出席者 平田会長、和田副会長、青柳委員、木下委員、横守委員
欠席者 なし

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議事・意見交換

【計画書について】

- ・一番大事なものは、目的や方針。新しい施設を使ってどういう風に展開していきたいのかが重要。
- ・養父市は芸術文化に対して力をいれて、最終的にこうなりたいということを市民に向かって言わなければ。
- ・どういう構想をもってやるかということをきちんと宣言しないといけない。
- ・会館のミッションを定めなければならない。最初の計画段階でざっくりとミッションを定めているのをより具体的に文言にしていくというのが当委員会のミッション。
- ・現状説明や、文化振興に時間がかかるということでは弱い。
- ・音楽祭であるとか、コンクールであるとか、図書館にピアノを設置して本と音楽を結び付けるとか、様々な試みもあるが、前提が定まらないとアイデアだけで具体性を持たない。
- ・いろいろなプログラムをやってそれが物語になって共有されるという文言になっていかないと響かないのではないか。
- ・資料1(2)⑤について、市で文化芸術に対する優先順位はそれほど高くなかったとあるが、チェロコンクールや木彫フォークアート、子ども歌舞伎などを始めとした文化芸術に取り組んできて、優先順位が低かったわけではないと認識しており、もっと評価すべきだ。
- ・計画書の作り方も考えて、子どもたちも読めるぐらいの工夫を。
- ・どれだけ議論しても、答申でどういう最終的な判断は任せてくださいというやり方では、今までの専門家が入った委員会と同じである。

【方向性】

- ・皆さんの思いは、通年でたくさんの人に来てもらいたい、イベントがない時も人がいるような場所にしてもらいたいというのが一番ではないか。そのために複合的な施設を活かす。
- ・劇場音楽堂というのは、鑑賞の場—高いレベルに市民が触れる場、それから交流の場—ワークショップや教養講座、いるだけでも安らぐような場、そして創造発信事業—作品を作る、コンクール、

コンサートを企画するなど、それを限られた財源の中でどの割合でやっていくのが重要。

- ・小さくてもいいから毎月のように親子で楽しめるコンサートをしましょう、いや養父市だけでなく但馬全体をターゲットに鑑賞してもらえらるぐらい質の高いものにしましょう、などいろいろ意見がある中でどこを狙っていくのか。
 - ・小さな営みを積み上げていくというのがこの会館の大きな役割で、そのためには市だけではできず、NPOや民間の文化団体なども含んだ活動が必要。これまでは自分たちの活動だけでやっていたものを少し外に開いていただく、開いていただくにあたって市も補助を出すということも一つ。
 - ・一方で目玉も欲しい。鑑賞事業も今までより質の高いものにしたい。
 - ・交流の場、鑑賞事業、養父市の目玉なりの創造発信事業、この三つの柱が必要かと思う。
 - ・鑑賞事業の質を高めるのは、限られた予算の中でフルスペックのオーケストラは難しいので、そこから落としたりしたところの議論としていけばいい。
 - ・こんなイベントやってみたら、とか、こんな活用したら、という話の前にどうしたいのか。養父市の文化芸術レベルというのをここまで上げたいというものがあるか。
 - ・これからの時代においては、移住をもっと積極的にすすめるのであれば、そこに対してどういうポテンシャルを作るのか。
 - ・移住促進などをメインにすえるなら、やはり親子で楽しめるもの、子育て世帯にやさしい文化会館ということが大きな軸になってくる。
 - ・企業誘致の在り方が変わってくる。これまでは製造業を誘致して人を引き留めるような形だったが、今回コロナでデスクワークのほうがリモートワークに向くこともわかり、養父市に住んで、月に数回大阪や神戸の会社に出社するといったビジネスの形態も増えるだろう。
- グンゼ跡地に新しい文化会館がそのシンボルとなる。

【施設管理・運営について】

- ・事務所棟は昨今の近代建築ブームでいうとこちらの方が借りたいと思う人は多いのではないかな。
- ・事務所棟、宿泊棟にオープンスペースを含め指定管理に出しては。
- ・運営方法について、ほかのホールの視察など、調査されていますか。
- ・広大なオープンスペースが、雑草が放置されるようなことがないように適正な管理を。
- ・グンゼは養父市の養蚕の歴史にとって重要で、養蚕の歴史を後世に伝えるようなコーナーを設置いただければ。

【図書館】

- ・図書館について、子どもや家族が来ていただけるよう児童書を充実していただきたい。
- ・図書館で弾き語り、音楽と朗読など企画されては。
- ・図書館で飲食できるスペースがあれば。
- ・固定の飲食スペースは商売的に難しければキッチンカーなどで出していただくとか。

【体制・組織】

- ・広大な敷地面積であり、半分以上は屋外で少ない職員で運営していくのは大変ではないか。
- ・市職員は基本的にゼネラリストであり、施設を活かして人を呼びこむかとするプロの力に頼らないとできないのではないか。
- ・各地域の公民館・ホールと新しい施設とは有機的に連動して、文化政策の重複がないようにしたほうがいい。
- ・事務所棟や外部空間、またホール事業や舞台操作など、にぎわいを作ること日いて民間に委託するなどプロの力を使ってはどうか。
- ・様々な仕掛けをある一定年数プロに任せてしまい、それをみて、いずれ市が直営でやっていくというやり方もある。
- ・プロの力を有効に使うべきところで使い、施設が盛り上がれば周辺の空き家などでも移住者なりが飲食やカフェを開いたりして結果的にまちににぎわいが出てくるのが理想では。
- ・プロの力を使ったにぎわいづくり前提で、そのフローを受け入れられるような組織を作っていくか、逆にプロをいれず市役所だけで全部やるということであれば、そういったそれなりの組織が必要。
- ・新しい部署がすべて担っていくのか、外部の人たちを入れながらやっていくのかで全く違う。
- ・ホール運営なり音楽祭なりの全体の方向を決めるための技術的知見の高い音楽監督員がいるのが望ましい。テーマや体制、広報などいろいろあるがまずは予算ありきであるためそれが決まらな
- いと。
- ・アーティストを定価で頼むと高くなる、コネクションを持つ人を呼べば安くできるかもしれないが、そうするとそれなりのプロでないといけない。
- ・大枠を決めて、それにあつた音楽監督なり、芸術監督なりプロデューサーを呼ぶ。日本のやり方の欠点は、先に人を呼んでその人に考えてもらうという場合が多いがそうではない。ミッションを定めてそれにあつた人を選ぶ。そのためもう少しミッションを具体化していきたい。
- ・せっかくチェロコンという種があるのでそれを音楽祭なりに育てたい。そうなった場合に市で立ち上げから全てできるのか、できないのであれば外から人を呼ばなければならない。そうなるとう
- たいのか、予算はどの程度かと示さなければ手を上げようがない。
- ・毎月何かをしていきたい、音楽以外も含めてこういうことをやっていこうなど、描くことが必要。その議論の上に新しい組織の形が見えてくるのではないか。
- ・ビッグネームな音楽家を据えてその名声でほかのアーティストも集まって、という形にするのか、あるいは地元
- に根差した形でホールのキャパに合う中程度のプログラムで、かつ但馬という地域にあつた演奏をする人を呼んでくるのかに分かれる。
- ・指定管理制度をとらなくても、何人かの専門家を入れることによって対応は可能。
- ・音楽なら音楽と、それぞれ分野で外部の方に入ってもらい形がとり得る形か。
- ・お金を投じなければいけないのは音楽の方で、ある程度コストをかけてコネクションを持っているがそれなりのポジションで関わってもら

- ・柔軟性をもって行うということが大事で、民間の力をどう使っていくか。
- ・オープンスペース等を活用する人材は、若い人で子どもたちと一緒に遊んでくれるような人を入れるということも。地域おこし協力隊なども考えられる。
- ・専門職大学の中にいい人がいれば一番いいが。
- ・属人的な話になるので、最終的には市役所の中で判断されたいい。
- ・文化財保護法の改正以降、文化財保護から、地域の街並みさらには活性化につなげていこうか。とする動的な活用に転換されている。新しい部署に入るのも妥当ではないか。
- ・スポーツや観光についてもどう位置付けるか。
- ・あと1年でいろんなことを全部用意していかなければいけない。

【展開】

- ・チェロコンクールは素晴らしいが、それを音楽祭まで進めていくのか、養父市がどこまで挑戦するのかどうか。
- ・チェロコンは素晴らしいプログラムであり、頑張っておられる方、好きな方々によって知名度は全国において高いが、ただどうしても市の政策骨格とまでは思われていない。
- ・コンクールはどこもそうだが、その楽器をやっていない人にとっては興味をもってもらえない。
- ・チェロコンクールを起爆剤に盛り上げようと思ったらアイデアが必要。養父市でフェスティバルまでしようとするのが難しいだろうがお金がなくてもやっているところもある。
- ・インディーズミュージシャンを集めてフェスティバルとか。
- ・豊岡の演劇祭では、神鍋や城崎を抱えており、本来は5000泊ぐらい宿泊増が見込める、今年は半分になるが、観光産業と連動した形でうまくやれば効果はあり理解は得られやすい。
- ・コロナの影響で今年の公演がほとんど中止または延期になり、その公演が来年にずれ込んでいく。本来春先ぐらいから来年度の公共ホールの売り込みに入るところ、今売り込みに行っても、今年延期になった分が全部来年に玉突き現象を起こしているの、新しい企画は入れられないと、どこのホールに行っても言われる。ということは、養父のホールは新しく新設する。そこは毎日空いているというのは、今年限定でチャンスである。

4 その他

5 閉会